

令和7年度第2回仙台市若林区区民協働まちづくり事業評価委員会  
令和8年度仙台市若林区まちづくり活動助成申込事業 計画説明会 議事要旨

○日時 令和8年3月7日(土) 09:00～15:30

○会場 若林区役所4階 第2・第3会議室

○出席委員

針生 英一 委員      田澤 紘子 委員      高橋 夕香 委員  
梅原 隆司 委員      菊池 馨 委員

○議事概要

1. 開会

2. 議事

(1) 評価委員の紹介、概要説明

(2) 議事録署名委員の選出 高橋委員 及び 梅原委員

(3) 令和8年度仙台市若林区まちづくり活動助成申込事業 計画説明会

- 各団体による事業計画説明
- 質疑応答、意見等

① AWESOME PORT プロジェクト【団体名:オーサム・ポート】

(質疑応答)

**委員** オーサムポートとしていくつか事業を実施する中で、主にこの助成金を使って実施したい事業は「やってみたいをやる」と考えて良いか。また、申請書では他団体の助成金も申込みしているが、この助成金と他団体の助成金の使い分けについての考えを説明いただきたい。

**説明者** この助成金は、子どもたちの活動に対して助成していただきたいものとの認識が良い。その他の活動費は、主に子どもたちの活動以外の費用として、子ども食堂「アライメン」の食事提供のための材料費と会場費になる。こちらは昨年度助成いただいた中でいろんなチャレンジをしており、企業等から協賛をいただいたり、経費削減に努めたり、参加者から参加費 500 円をいただくなど、今年度はそれらで賄いたいと考えている。他団体から予定している助成については、認められれば会場費と材料費に充てたい。

**委員** 事業計画書の期待される効果が6点挙げられているが、その中で「やってみたいをやる」に特化した場合の期待される効果についてご説明いただきたい。

**説明者** 自己肯定感を持つことや表現することを難しく感じている子どもたちもいて、地域での大人との関わりを通じて子どもたちがその場を安心と感じて、その中でやってみたいことを少しずつ大人たちに伝えていける機会になっているかと思っている。子どもたちからもこんな活動をやりたいとの声もいただいている。それらを「やってみたいをやる」の活動に反映していくことで、それが大人たちとの活動に反映していった相乗効果になるのではないかと思う。

**委員** 今回の説明とまちづくり助成を結び付けて、まちづくりに対する効果について説明いただきたい。

**説明者** 地域の人が安心・安全を感じることに大事だと思っている。「まち」は人で出来ていると思っており、人が幸せになるために何が必要かと考えるときに、地域食堂で多世代と関わること、どの人も価値があるということを大切にする場として地域食堂や子ども活動が必要と感じている。今回助成を「やってみたいをやってみる」に絞ったのも、今後自走を実現していくために、「はぴちゅー」と地域食堂の活動は何とか自分たちで回していきたいとの思いもある。

**委員** 子どもたちから提案のあった「やってみたいことをやってみる」は具体的にどのような提案か。

**説明者** 通信制の高校や不登校の親の会に参加する子どもたちの話を聞く中で、若者が何をやりたいのか分かっていないと感じた。いろんな若者たちと一緒に自分がやってみたいことを探す活動をやってみたい、やってみたい部を立ち上げたいとの相談があり、今いろんな方々に声がけしている。

**委員** 謝金 17 万円計上されているが、これは講師一人 3 万円、臨時サポートスタッフは一人 5 千円だと思うが、講師一人 3 万円の拘束時間を説明いただきたい。

**説明者** 講師によって多少前後するがおおよそ 5 時間前後となる。

**委員** 定量的なデータが資料等に記載されていないが、ここ数年の参加者数やボランティアの人数の推移についてご説明いただきたい。

**説明者** 現時点で統計は取っていないため正確ではないが、子どもだけの企画の場合、常時いる子どもが 10 名程度、企画を行う場合は 10 名から 20 名程度、大人と一緒に参加する場合には、それにプラス親の数となる。地域イベントの場合は、地域活動団体が 50 名程度プラスとなり、全体が 100 名程度となっていると思う。今後は統計を取っていききたい。

**委員** 最後に、自立化に向けた道筋について考えがあればご説明いただきたい。

**説明者** 私達もそこには力を入れていきたい。人と会うことの難しさを感じている子どもたちも多いので、地域活動やアルバイトの機会をつくり、若者一人一人のモチベーションに応じて外に出ていく場を用意したり、前回の委員会でアドバイスいただいたとおり、企業とのつながりも作っていききたい。

## ② 地域を知り・伝え・動かす ミニコミ誌編集局育成事業【団体名:アライフェローズ】

(質疑応答)

**委員** 「広く住民のために」の視点で考えた場合、新規編集メンバーが目標 3 名など、計画内容が限定的な印象がある。この事業を広く住民に広げていく視点でどのように実施していくのか具体的にご説明いただきたい。

**説明者** 地域への呼びかけについて、七夕やまち歩き等のイベントに関わった多くの方々はこの事業の広報をしつつ告知にも関わってもらおう。新規メンバーの目標については、これまでも募集に苦慮していた背景から、心理的に負担が少なく感じられるよう最低 3 名とした。出来ればたくさんの人に主体的に参加してもらいたい。地域に関わることの楽しさを知ってもらい入り口として、仕事ではなくボランティアの要素が強いので、知って楽しむところから広げていければと考えている。今までは荒井地

区に限定的に募集してきたが、もっと広域的に関わってくことも出来るのではないかと考えている。

**委員** 資料等から荒井地区に限定した人材育成ととらえていたが、今日の説明を踏まえると、そうではないという理解で良いか。

**説明者** 荒井地区を中心に考えてはいるが、荒井地区に関心のある方やサポートしたいという方であれば他の地域からの参加も歓迎したい。ただ、主体は地域の人と考えている。

**委員** 会員名簿には町内会長も入っていて、次の町内会を担うような人材と出会うことも期待されていると理解したが、外側の方が関わることにどのような期待感を持っているのか。

**説明者** 荒井のまちに興味を持ってもらい、荒井のまちを楽しんでもらうことを大事にしている。住民ではなくとも、荒井や七郷を楽しんでいると感じていただくことが地域の人々にも伝わると思っている。一緒にみんなで気持ちを豊かにしていくことを大切にしていきたい。また、荒浜地区内の町内会も、活動がそれぞれ単独で行われていたり、表立って活動していない方々もおおり、そうした方々も引き入れながらアクティブに活動していけるようにしていきたい。

**委員** この事業がミニコミ誌編集講座という印象を受ける。提案内容では、40～60代の地域参加を掘り起こすとあり、その手法として勉強会が有効と考えているのか。

**説明者** 勉強会を地域づくりの入り口にしたことについて、実は地域から地域活動に積極的に参加するのに何をして良いか分からないという心理的ハードルがあるが、勉強会であれば受け身なので入りやすいとのご意見をいただいていた。社会学級の集まりでも、退職後の男性の活動の場がなかなか無く、家でずっと過ごしている人も多いと聞いており、男性も関わりやすい活動として、一人でも作業出来る活動でもあり、勉強会という形はチャレンジする意味があると思う。

**委員** 「農」の体験型ワークショップは具体的にどのような内容か。

**説明者** 余っている農地があり、自由に使って欲しい、地域活動であればお金も取らないし、場合によっては種等も用意すると言ってくれている人がいる。種まきから除草、収穫して食べるのを一連で行いたい。近くに馬術場もあるので、そこから馬糞もいただいて、SDGs的に循環させていく。地産地消出来るような立て付けを行うことで既に話は進んでいる。

**委員** 材料費の5万円の内訳についてご説明いただきたい。

**説明者** 伝統七つ飾りの専門の講師を卸町から呼んで、学びながら多世代で七つ飾りを作って駅で展示したいと思っており、参加したり取材したりするための材料費、またその他飲物等の活動費として、20名とサポーター分を想定して計上している。

### ③ 荒浜磯獅子踊「女獅子かぎ」再生を通じた海辺に触れる場づくり

【団体名：荒浜磯獅子踊りを再生する会】

(質疑応答)

**委員** イベント出演の謝礼10万円ほど計上されているが、既にメドは立っているのか。

**説明者** 2025年度に様々なイベントで出演したところから、また来年の依頼が来ているので、それを想定して計上した。

**委員** グッズ販売が28万円、その製作費が16万円ほど計上されているが、その販売戦略についてご説明いただきたい。

**説明者** 様々なところから演舞の依頼がありその際に声がけしたり、SNSやメール、リストの活用、荒浜で行われる様々なイベントや毎月行っているビーチクリーン等で販売していく。

**委員** 販売額が手ぬぐい2,300円と少し高い印象だが、思ったように売れなかった場合は収支計画が狂うと思われる。その場合はどうするのか。

**説明者** この販売はあくまで広報であり、知っていただくための手段の一つと考えている。収支予算については、例えば活動資金の一つである会費も含めて考えている。また、協力いただいている活動団体に声掛けを行うなど、なるべくスモールスタートで始めていき、出来るだけ在庫を持たないようにしたり、次年度に継続して広報していくものとして活用していく。さらに、子どもたちにも参加していただきたいので、そのプレゼントとしても活用し、在庫を抱えないようにしていきたい。

**委員** 荒浜の地域性が高い事業だと思うが、荒浜の団体やかつての町内会の住民が参加協力しているということが少し伝わってこないように感じる。地域住民とのつながりや広がりをもう少し説明いただきたい。

**説明者** 少しずつ芽が出ている部分がある。今月、荒浜地区から集団移転している人たちが住んでいる集会場での演舞も予定している。私がこれまで15年の間荒浜で取り組んだ経験から、荒浜から集団移転していった方々は今の生活が大変で、荒浜に思いを持っていくことが難しい状況にあると感じている。そうした中、これまでの様々な課題も踏まえた中で、荒浜磯獅子踊という芸能を通じて共感を持つ方が出てくるのではとの期待をしている。

#### ④ 絵本を通じた地域の介護理解促進事業【団体名:介護の未来を育てる小さな一歩】

(質疑応答)

**委員** この事業では、絵本を通じて介護について特にお子さんに広めたいという趣旨と理解して良いか。また、特に認知症に特化していると考えて良いか。

**説明者** これからは認知症の方々が増えていくことに視点を置いている。障害という難しい視点となるといろんなお声もあったので、まずは、高齢者との関わりというところでとらえていただけると良い。

**委員** 今回の企画を考えていただくにあたり、地域包括支援センターに認知症地域推進員という職員がいるが、そういった職員とコミュニケーションをとる等の経緯はあるか。

**説明者** 専門分野の方とやり取りした経緯は未だないが、不動産屋として地域包括支援センターと連携してきたという経緯はある。昨年11月に立ち上げたばかりの団体であり、その辺の調整はまだ出来ていない。

**委員** 認知症サポーター養成講座はいろんな種類があるが、こうした講座を実施した実績はあるのか。

**説明者** 今年度の4月以降で検討している。シルバーセンターからは詳細をいろいろ伺っており、10名以上であれば講師を派遣でき、小学生向けであれば紙芝居の上映や寸劇は出来ると聞いているので、なるべく小学生向けに出来るだけ優しい内容で開催し

たいと思っている。

**委員** 子どもの理解を深める取り組みとして、児童館等に事業の相談を行い実施していくのに結構時間がかかり、子どもにとって面白いテーマでもないので人集めも苦勞するだろう。10名以上集めるとしているが、何か方策があるのか。

**説明者** 協賛企業がたくさんいて、その経営者や従業員とその家族も介護に対する意識も高いと思う。若林区内に協賛企業もいるので、お子様方を取り込みながらそこから始めたい。

**委員** 出前講座は連続開催か、それとも単発か。

**説明者** いろんな地域で年4回開催したい。

**委員** 今お住いの地域だけではなく若林区全体の市民センターで開催するということか。

**説明者** 会場は市民センターに限っていない。特にどこでも良いと伺っているので、場所の断定はしていない。

**委員** 収支予算書で絵本製作費を1冊2,000円の100冊製作として20万円計上しているが、「かるた」は作るのか。そうではなくということか。

**説明者** これとは別に介護かるた自体は自分たちの資金で賄っていく部分もある。絵本は第一段階として発行した分で配布する。介護かるたは協賛金で賄えればと思っていて、収支予算書上は絵本のための記載となっている。

**委員** 介護かるたを使って何かイベントを企画しているが、介護かるたの製作費は収支予算書には含まれていないという理解で良いか。

**説明者** そこは自分たちで賄っていく。

**委員** 大事な事業でありその趣旨ややりたいことには共感するが、一方で事業の具体性に欠けると思われる。イベントを実際に企画して実施した経験はあるか。

**説明者** 本業が不動産業で、セミナー等の開催経験はあるが、このように取りまとめをして何かを行うのは初めて。団体も昨年11月に立ち上げたばかりでこれからというところ。

**意見** 地域の不動産屋として、どういった方が周りに多くいて、特にこれから単身高齢者が増えるという中で住宅問題をどうしていくかという点に社会課題が突入している中で、地域拠点として非常に重要であり、こうした業種が介護問題を扱うことに期待感が高い。一方、対象を多世代に着目している点で幅広すぎるとの印象もある。そこは1年目として改めて対象を絞って検討されるのも良いのではないか。

#### ⑤ なないろの里音楽療法の集い【団体名:音楽療法の集い】

(質疑応答)

**委員** 役員が少ない中で運営されてきたと思うが、会を継続していく上で役員体制や協力者について考えていることがあればご説明いただきたい。

**説明者** 会長は高齢ではあるが、若年者も月に1ないし2名ずつ入ってきているのも事実。若年層の方々に少し意識を持ってもらい継続していただくことが一つ。それから、助成金の申請やコンサートの開催等についてメモリアル交流館のスタッフが協力していただいていることも一つ。また何か開催するにあたって、若林区内のいろんな団体とネットワークを築くことが少しずつ出来ているので、そうした団体の協力も得ながら継続していきたい。

**委員** どなたでも参加出来る会ということで良いか。

**説明者** その通り。

**意見** 仙台市では、新年度に向け地域で誰でも参加できるサークルを誰でも見れるようなシステムを作ろうとしている。活動の広報で、包括支援センターなどにもこんな活動していると声掛けすれば参加者の幅も広がると思う。

## ⑥ 高齢者向けスマホ教室【団体名:TGU 情報リテラシー教室】

(質疑応答)

**委員** 令和7年度は子ども向け情報リテラシー教室だったが、今回は高齢者向けとプログラムを変えた理由について説明いただきたい。

**説明者** 子ども向けの情報リテラシー教室は別でまだ行っている。高齢者向けスマホ教室は昨年から実施しており、その中で、高齢者の中には若者と会話する機会を求めて参加する方もいた。それに加え、この内容を扱って欲しいとの意見もあり、町内会から参加した方からはより詳しい内容を取り扱って欲しい等の声もあった。地域と一緒に、よりまちづくりに合った事業としてこちらに応募した。

**委員** チラシの配布について、これは各町内会に配布するイメージか。

**説明者** そう考えている。実際にその方法が難しい場合は、市民センターや地域包括支援センターへのアプローチに加えて、スーパーやデイケアにもアプローチしていきたい。

**意見** チラシを配布しただけで人集めをするのは非常に難しいので、チラシを配布しただけでは人は集まらないことを前提として考えておいた方が良い。

**委員** 今後の目標として参加者延べ200名と挙げているが、昨年度の実績で延べ何人だったか教えて欲しいのが一つ。また、助成金を受けて大きく変わったところが広報活動との説明があったが、まちづくりに関わって昨年度の実施内容と何が違うのかご説明いただきたい。

**説明者** 一つ目の昨年度の実績について、6回実施し合計97名の参加となった。二つ目について、昨年度は高齢者の大半が初めてスマホ教室に参加した方だったため、内容を理解していただくのに数回のスマホ教室を重ねたが、去年の講座に参加した高齢者は若干慣れているため詐欺対策や防災アプリなど若干発展した内容にして量や質を上げて取り組んでいきたい。

**委員** 年間10回の開催で目標人数200名、1回あたり20名を目指すというか。

**説明者** 昨年は6回で97名から計算すると10名後半ぐらいになる。

**委員** 他で有料でやっている高齢者スマホ教室に対し、無料で手厚いこのスマホ教室には応募者が殺到するのではないかとと思われるが、申込方法はどのように考えているのか。

**説明者** 昨年はあまり集客の方法が良くなかったのか、思ったほど集まらなかったため、それほど多くの応募があるとは考えておらず、20から30人に落ち着けば良いと思っていた。予約制度についても、予約する人以上に、当日参加の方が大半だったので、今年度は当日受付にして部数を多くしようと考えていた。

**委員** 会場の広さによって定員は決まってくると思うが、そのあたりの対策はどう考えているのか。

**説明者** 場所は若林区中央市民センターを予定していて、セミナー室A・B室の大きい部屋

で考えていたため、30 から 40 名程度は対応出来ると思っている。

**委員** 最大 30 名ということの良いか。スタッフの皆さんも最大 30 名来ることを想定してスタッフや資料を印刷するということが良いか

**説明者** はい。

**委員** 事前申し込みはマストにしないということか。

**説明者** はい。

**委員** まちづくりにどう寄与するのか気になっている。高齢者と学生の交流を強調されていたが、偶発的にではなく、具体的にどのような工夫をして交流の場を創出しようとしているのか。

**説明者** 昨年度の事業では偶発的な交流となった。今回の計画で今のところはっきりした計画はないが、昨年度は若者と話したいと残られた方もいて、そのような時間も活用したり、出来るだけ若者から話しかけるアプローチもしていきたい。講座の時にも、講師がそのような声掛けを実施していきたい。

**委員** 仙台市も高齢者向け無料のスマホ教室を行っている。人が殺到しているかは疑問だが、チラシを見て参加される方はある程度理解している方が多い。私の仕事で向き合っている高齢者はスマホを持っていても電話としてしか使っていないなど、ほとんど関心がない人が多い。広い意味で地域課題の解決という点で弱い印象を受けた。例えば、集会場をドサ周りするようなやり方もあると思うが、1 か所で実施しようとする理由や意図があればお聞かせいただきたい。

**説明者** 中央市民センターにこだわった理由としては、会場を移動してしまうと、中央市民センター周辺の人を利用出来なくなる。予定を立てやすいように、場所と曜日を固定して実施したいと考えていた。

#### ⑦ 情報発信フェス（通称：出張荒町）（荒町のミライチズを描こうプロジェクト）

【団体名：TAU ラウンドテーブル】

（質疑応答）

**委員** この事業は元々ある事業の情報発信なのか、それとも学生と企業が協力して新しいサービスを作って発信していくというイメージか。

**説明者** まず、荒町がこれまで培ってきた魅力、伝統と歴史を発信するフェスにしたい。ただ、事業が継続する中で事業に関わりたいと思う学生がたくさん出てくると思っているので、その中で学生が新たな付加価値を付け加えるような活動が自然発生的に生まれてくるのではないかと考えている。

**委員** 情報発信フェスの中身が具体的に見えてこないことが一つ。また、荒町は最近ビルの解体や空き地が増えてきている等の印象があるが、その意味で商店街の活性化は大事になってくると思う。ただ、学院大学があるところは、荒町もそうだが、連坊小路も近く、荒町と連坊は東七番丁でつながっている。学生にとっては、どちらも顔見知りになれる地域だと思う。今後、若林区の中でも数少ない活性化している商店街について今後どうしていくか考えがあったらお聞かせいただきたい。

**説明者** 今まさに荒町商店街で今後どうしていくか話し合っている。荒町商店街は学院が来て若い人が入ってきて活性化しているが、店が少なくなりビル街や住宅街になるのではと危機感を持っている。長く操業している味噌屋や酒屋等頑張っているお店が

あり、ずっとそこにいてくれる毘沙門さんもあり毘沙門さんを中心とする街づくりも考えていきたいと思っているが、今回は「出張荒町」として商店街がキャンパスに出ていくことでなかなか進んでいなかった学生と商店街との交流を深めていき、学生と商店街が関わることで新たな指針が生まれるのではと期待している。400年以上の歴史のある商店街であり、若い人の力を借りることで人と人とのつながりのある温かい商店街に向け情報発信していけるのではないかと思いつき取り組んでいる。もう1点、情報発信フェスについて、「出張荒町」とあるとおり、商店街が学校のキャンパス内に行って商店街の紹介をしつつ、関わりを持つことで学生にもお店に足を運んでもらうような仕組みを作りたい。商店街は確かに荒町だけではない。他の地域と一緒に成長していきたいが、いきなり広げすぎるのも難しいので、まずは荒町でやってみて、そこから「五橋」「若林」「仙台」へと広げていきたい。

**説明者** (補足) 今回の情報発信のプロセスには学生が関わっており、今回の資料も学生が作っている。情報発信プロセスに学生や地域の方が関わることで学生も成長していくことが大切だと考えている。学生も変わっていく、知らなかったことが好きになる、また地域の方も魅力を再発見していくことが可能になると思っている。さらに、若林にはたくさんの学校があり、商店街や町内会の方も大変熱心に活動されているので、この事業を横展開していくことは可能だと考えている。

**委員** 先ほど説明のあった荒町の良さは現場に行かないと分からないところだと思っている。学院大学と商店街との距離感は近いように感じるが、学生が商店街に行くのではなく、商店街が学院大にわざわざ出張していくという手法を取らざるを得ないほど学生と商店街の間に距離感があるものなのか。

**説明者** 距離感があるわけではない。商店街や町内会の活動に学生がたくさん参加している。例えば、公園の清掃活動、お祭りや七夕作りのお手伝いをさせていただいているが、学生が商店街の店を利用しているかと言えば、学生数に対し商店街の利用が多いとは言いがたい。荒町等の地元商店街では個人店の良さはあるが、若者ほど仙台駅周辺の魅力に惹かれてしまうのは仕方のないことだと思う。ただ、大型店にはない個人店の良さが荒町等の商店街にはある。学院大学が五橋に来て間もなく3年、学生はまだまだ駅の方を向いているので、「出張荒町」としてキャンパスに乗り込んでいこうという、これも学生のアイデア。

## ⑧ アトラス 食の輪チャレンジ【団体名:一般社団法人アスリートアトラス】

(質疑応答)

**委員** 期待される事業の効果3点のうち、まちづくりの視点で見たときに、「地域主体による健康づくりの基盤形成」が非常に大事と思っている。助成対象となっているメニュー作りや食材購入はあくまで手段であり、結果的に健康づくりの基盤形成を成し遂げて欲しいと思っている。行政では対応が難しい子どもやその親が相談できる場所に将来的になることで、公的機関がタッチしにくい部分を担っているという点では期待している。一方で、広報や情報公開が弱い印象がある。資料の記載のあるもの以外で拡充出来ることがあたらご説明いただきたい。

**説明者** 南小泉児童館や蒲町児童館とイベント等を通じて、子どもたちがたくさん集まるところ、親御さんとのつながりのあるところと関係を作ることが出来たので、その方々

にチラシの配布や情報提供等を依頼していきたい。

**説明者** (補足) アンケート調査で、来年度最低2校以上取ることで、アトラスカフェの場所と存在を認識してもらうことや、アトラスカフェの利用者から他の保護者にも伝えていただくなど、そのような形での広がりも期待できると考えている。

**委員** 「子どもを起点」にこだわっているが、子どもが親に言って家全体の食習慣は変わるのか。昨年実施しての実感や成果についてお聞きしたい。

**説明者** 実感としてはないが、子どものうちの食習慣が今後につながっていくため大切だと考えている。子どもを起点としたという点では、この事業でつながったTGU情報リテラシー教室と栄養とプログラミングを掛け合わせたイベントを行った。そのときは子どもだけの参加だったが、栄養の基礎知識を学んだということを子どもに家に持ち帰ってもらうところが効果として感じられるところだと思う。それに、子どもを対象とするイベントを行うともれなく親御さんも参加するので、アンケートに記入いただくときも、子どもだけでは回答できず、大人に相談するというのもあるので、そうした場面で親への波及効果も実感出来る。

**意見** 今後も活動される際、パンフレットの配布も良いが、それによってどう変わったかという成果が無いと難しいと思う。ぜひ、データとして、単純なアンケートだけではなく追跡のようなものも含め、しっかり行っていただきたいと思う。

#### (4) 審議

##### ① オーサム・ポート

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.50《採用》
- ▷ 助成金額 380,000円
- ▷ 審議概要

これまでの事業の結果を踏まえた内容になっている点で期待される。

3年目以降の事業の継続性や自立化に向け、講師謝礼や参加者負担金のあり方、外部資金の活用など、予算面での更なる工夫が必要と思われる。

##### ② 一般社団法人アスリートアトラス

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.10《採用》
- ▷ 助成金額 202,000円
- ▷ 審議概要

食の重要性や公的機関の手が届かないところへの活動である点で応援したいという思いもありその活動に期待している。

令和7年度の反省点も踏まえ事業を推進するとともに、「食」に関する子どもを通じた家庭へのアプローチの仕方も工夫いただくなど、食事メニュー作りに終わることなく事業を通して地域の健康に貢献していくところまで目指してほしい。

若林区にはいろんな食材があり、それらも生かし地域の特色をもっと出していくことにも期待したい。

③ 荒浜磯獅子踊を再生する会

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.00《採用》
- ▷ 助成金額 200,000 円
- ▷ 審議概要

失われた伝統芸能を発掘し残していくという趣旨と情熱には期待している。

伝統芸能の復活として地域に根付かせていくことが大切であり、サークル型の活動となってしまうまいよう、この活動を通じて今以上に元住民も巻き込んだ動きにつながっていくための工夫が必要と感じた。

初年度については、練習会と広報活動等に要する費用を助成する。

④ 音楽療法の集い

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.00《採用》
- ▷ 助成金額 81,800 円
- ▷ 審議概要

本日の事業の説明から、この活動に対するやる気と意義を感じることが出来た一方、役員の高齢化など運営体制に課題があるように見受けられる。

今後の事業継続に向け、新たな会員の開拓に積極的に取り組むとともに、いろんな会員からの多様な意見を柔軟に受け入れていける運営体制の再構築が必要である。さらに、サークル型の活動のような印象もあり、その活動内容がまちづくりにも寄与してくよう工夫していただきたい。

⑤ あらいフェローズ

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.00《採用》
- ▷ 助成金額 70,000 円
- ▷ 審議概要

「情報発信」という切り口から、記録を通じて住民の結びつきを強めたいという貴団体の熱い想いが伝わった。

収支予算書の支出について、目標に対し講師等の謝金等の申請費用は、効果の観点から高額であり、また本事業費の中に別事業として実施している支出も含まれているように思われる。

どのような運営体制で実施するのかよく見えない部分もあり、また地域課題の解決というより今あるプロジェクトのための資金援助のようになってしまいうように見受けられるため、今後資金面を含めた運営体制の工夫が必要である。

⑥ 介護の未来を育てる小さな一歩

- ▷ 採点結果 総合評価点：2.00《採用》
- ▷ 助成金額 100,000 円
- ▷ 審議概要

地域の関係団体が認知症のサポーター養成講座を開いてくれることは非常に心強く思っている。

団体からの説明や資料からは、事業の具体性がよく見えず、事業の目標も絵本やかかるたの製作になっているように思われる。

収支予算書では 100 冊作る計画となっているが、その使い方も説明等からは不明確であった。

新しく出来たばかりの団体でまだ実績もない中、運営体制に対し事業計画にも無理があるように感じられるため、スモールステップから始め着実に実施していくこと、実施にあたって専門機関と連携することが必要と思われる。

#### ⑦ TAUラウンドテーブル

▷ 採点結果 総合評価点：1.54 《不採用》

▷ 審議概要

時代の流れとともに商店街の中でも様々な課題がある中、商店街の活性化に学生と共に取り組んでいこうとする活動には熱意を感じたところである。

企画書等から、商店街の振興のための事業と受け止めたが、そうであるならば課題意識をもつ商店街で予算化をして行っていくことも視野にいれるべきではないか。また、事業の主体が商店街なのか学生なのか或いは別なのかが見えにくい内容となっており、主体性と実施体制を明確にされたい。

助成金の殆どが特定企業（連携団体）による広報費用となる点は以前の申請の際にも疑問を呈していたが収支計画的にかわらなかった。広報にかかる費用額も他の申請団体より突出して高額であり効果に見合うものか疑問である。

「まちづくり」に係る助成のため、将来を見据えた長期的な視点が必要となるが、担い手が4年間で入れ替わる大学生であり、地域との接点は大学のキャンパスとなる点が、ユニークさや広がりには欠けるように感じた。

以上のことから、今回不採択となったが、事業内容や収支内容もご検討いただいて、再チャレンジしていただくことを期待したい。

#### ⑧ TGU情報リテラシー教室

▷ 採点結果 総合評価点：1.32 《不採用》

▷ 審議概要

学生の活力と柔軟な発想を地域資源として活用し、情報格差の解消と多世代共生モデルの構築を目指す意義深い取り組みであると思われる。

当日の事業説明と質疑応答では、準備不足の感が否めない印象だった。

本助成は、「区民の創意工夫による自主的・自発的な地域課題解決や地域の活性化」を目的としていることを踏まえ、どのようにまちづくりに寄与していくかをよく考えていただきたい。

高齢者向けの事業とするならば、実態の把握や包括支援センター等の専門機関との連携を検討されたい。実態に即した事業を実施するために、既存の地域ネットワークを活用した広報、大学の専門家からの指導、外部の関係団体による助言等の活用も検討いただけると尚良いと考える。

#### (5) その他

### 3. 閉会